民主主義の旗
No.49号 1部20円
発行所
民主主義学生同盟
全国委員会編集局
大阪市阿倍野区松崎町
4の1の14寺島商会気付

アメリカは北爆を即時全面停止せよ

第二回全国代表委員会決議

四月闘争に起ちあがった全国の学友諸君！　わが民主主義学生同盟は九大会決定に基き、「今年こそベトナム反戦闘争勝利の年にしよう」を合言葉に全国の学園で四月闘争を展開した。「北爆即時全面停止、米軍撤退、沖縄基地撤去即時返還、侵略共犯者＝佐藤内閣打倒」のスローガンは、4・26、27、28の国際連帯の闘いの中で全国学友の深い支持をうけた。情勢の進展はこのスローガンをさらに高くかかげて進む必要を示している。民学同第二回全国代表委員会は、全国のすべての学友に、四月闘争の総括と五～六月闘争の方針を訴える。

一

今年の四月闘争は例年にないもりあがりをみせた。学生大会やベトナム反戦集会には多くの学生が結集し、クラスには独自のベトナム反戦の行動組織が作られるという状況が各学園に生じている。学生の間には、広範にベトナム反戦闘争を闘う意欲が存在しており4・26、27の国際連帯の闘いは大阪府学連千名を先頭に全国各地で大衆的に闘われた。

しかし、一方では、闘いの大衆的高揚に水をさし、妨害するものとして、**民青のセクト主義と、トロッキストのヘルメット・こん棒戦術、現地闘争主義**があった。トロッキストが各派にわかれて、ヘルメットデモをおこなうのが恒常化しつつある。ところが明大においては、中核、社学同、解放派がそれぞれヘルメットをかぶり、二十人ぐらいずつで集会を行い、学友がそのまわりで見ているが、デモにはだれ一人として動こうとしないという状況が生れている。王子や成田のような局地的現地の「闘い」にピストン往復し、極左戦術で気勢をあげるというトロッキスト、ネオトロッキストの現地闘争主義、極左戦術に学友は支持を与えなかった。

このことは、トロッキスト内部にも深刻な矛盾をひき起している。革マル派は中核派の極左戦術を批判し「批判の自由と行動の統一」といったおよそ今まででは考えられなかったようなことを主張している。また解放派は「こん棒」を持つことには批判するようになってきている。中核派も内部において激しい矛盾を抱えている。日本の学生運動に悪しき影響を与えた羽田闘争に始まる現地闘争主義を、克服する展望がようやく切り開かれてきている。各学園においてトロッキストのヘルメット・こん棒戦術に対する批判を徹底的に組織するならば、大衆闘争を成功させ、彼らのヘルメット・こん棒戦術を粉砕しうるであろう。層としての学生運動の大衆性を回復するためには、4・26大阪府学連千名の大半がプラカード・ゼッケンによる規律あるデモを行うことによって、トロッキストのヘルメット・こん棒を最少にとどめえたような闘いを組織することが全国すべての学園で必要なのである。

トロッキストの「左」からの運動破壊とともに克服しなければならないのが民青のセクト主義、分裂主義である。4・26国際反戦闘争に敵対する分裂4・24「闘争」を行ない、大阪では4・26にも自治会の隊列を分裂させ、わずか十数名で伊丹にいっている。民青のセクト主義は学友から糾弾され支持されていない。

わが同盟は断固として、トロッキストのヘルメット・こん棒戦術を拒否し、民青のセクト主義を克服すべく、5、6月に巨大な学園ぐるみのベトナム反戦闘争を組織する決意である。

二

全世界の平和勢力の力は、アメリカ帝国主義に、ジョンソン声明を出させ、パリにおける和平会談を実現させている。米帝国主義がベトナムにおいて、政治的軍事的に敗北を重ねているのは衆知の事実であり、今年をベトナム反戦闘争勝利の年にする客観的条件はまったく成熟している。直接派兵をのぞくありとあらゆる形態でベトナム戦争協力をおこなっている佐藤内閣にジョンソン声明以後、独占内部からも疑問が提出されつつある。このような矛盾と動揺の中で五月一日のメーデーには侵略加担と物価値上げに反対し、安保以来の佐藤内閣打倒のスローガンが、全国六百八十万人の労働者によってさけばれた。

ベトナム戦争の最終局面を迎えた今さらに侵略共犯者＝佐藤内閣を打倒する闘いをおしすすめ、ベトナム人民との連帯を強化することが決定的に重要である。加えて、現在の情勢の下で、はっきりと提起されねばならないのは平和共存の問題である。ドル危機の一層の深化と戦争政策の破綻は、米帝国主義内の最も好戦的な反動的部分を孤立させ、世界的に平和共存の展望が大きく開けてきたことを示している。

日本においても戦争協力と対米依存の佐藤路線が破綻しつつあり、反佐藤の民主勢力が統一された闘いを強めるならば参院選で、侵略協力をしない政府を作ることは全く可能である。平和共存に前進するためには、侵略加担の根拠となっている安保条約破棄の闘いをおしすすめ、中立をかちとらねばならない。

わが同盟は、五～六月闘争に平和共存の旗を一層高くかかげ、前進する決意である。

今日の学生運動の発展にとって極めて有害な役割を果しているヘルメット・こん棒戦術に大衆的批判を集中し、その克服をかちとらねばならない。

今、ここで、すべての平和勢力が北爆即時全面停止と米軍撤退をかかげて闘うことが、ベトナム人民との真の連帯なのである。

全国の学友諸君！

ベトナム反戦闘争勝利をめざし、全国学園で闘いを広げよう。

クラスに依拠し、学園ぐるみの大衆的決起の中で、トロッキストのヘルメットデモを粉砕しよう。

プラカード・ゼッケンによる規律ある巨大なデモンストレーションで極左戦術を粉砕しよう。

5・24全国学生統一行動に起ち6月全関西学生総決起集会を成功させよう

△スローガン▽

北爆即時全面停止、米軍撤退
沖縄基地撤去・即時全面返還
侵略共犯者佐藤内閣打倒
安保破棄、平和と中立の政府をつくりあげよう！

5・24全国学生統一行動

五月二十四日、アメリカの北爆即時全面停止、米軍撤退、侵略共犯者佐藤内閣打倒を掲げ全国学生統一行動が行なわれる。

4・19、4・27、28、5・1メーデーと一連の闘いの中で、トロッキストの左戦術を拒否し、全国的大衆的闘いを築きつつある日本の学生運動は、今こそ強固な隊列を作り上げることが要請されている。

全国の学友諸君！今こそトロッキストの極左戦術を放逐し、民青「全学連」を粉砕し、学生運動の統一、真の全学連再建へ向け前進しよう。

関西、東京を中心に準備進む

大阪府学連は、五月八日執行委員会・評議員会を開き、5・24闘争のとりくみを決定した。大阪大学では授業辞退でとりくむ予定。

京都では、同志社大、立命大を中心としてストライキを含む大衆行動が組織されつつある。一年ぶりに提起される関西三府県の連帯行動は、全国的大衆的学生運動の再生への巨大な前進となるであろう。

兵庫においても、兵庫県学連は、神戸大を中心として、その組織を開始している。神戸大は5・20学生大会の成功をめざし、特に民学同を中心とする、神大

五、六月を反戦と平和のために「ベトナム反戦全国行動」

ベトナム戦争は転機を迎えました。

三月三十一日のジョンソン大統領声明でテト攻勢をの

4・26全国で

大阪府学

クラス・学科基礎に四〇〇名参加

―大阪大学―

【阪大支部発】4月26日、午前8時には、30名程の学生が、「デモクラット」、自治会ニュース、クラスアピール、平和組織の呼びかけ等十二、三種類のビラをまき始める。構内には、民学同旗、自治会旗、クラス行動委の旗、文学部の解放戦線の旗が十本程林立し、「4・26統一行動に大学ぐるみの規律ある統一した闘いで起ち上がろう」「アメリカは北爆を即時無条件完全に停止せよ、侵略加担の佐藤政府は退陣せよ」とかかれた二本の横幕がキャンパスを通る人々の注視を集めていた。

昼休みになると、全学一斉に学内決起集会がもたれた。教養部では、四百名以上の学友が、芝生に集まり全大阪反戦青年委員会から鍵山伊三雄委員長が連帯のあいさつを述べ、クラスからも代表が多数演壇にのぼった。そのあと、学内をデモ行進し、他学部生にもよびかけた。文、法、経済学部では「三学部合同討論集会」が行なわれ、大学院を含めて、五十名の学生が参加した。なお、経済学部では、国立大中最右翼の学部（マルクス経済学の講義はなし）にも拘ず「平和のための経済学部行動委員会」が結成され、多くの学生の支持を集めはじめている。

理学部では教官、職員、大学院学生、学部生有志によって結成された「ベトナム反戦理学部協力委員会」が開れた「4・26統一行動」成功のための理学部集会」に百五十名が参加し、映画討論が行なわれた。

また、これまで、平和運動不在といわれた、医学部、工学部でも、昼休み、学内集会がもたれ、中之島地区（医、歯、看護）から三十五名もの学友がデモに参加

4.26ゼッケン・プラカードの強固な隊列―大阪

一部暴力分子

わが隊列

【京大支部発】京大支部4・26闘争を「ベトナム戦の十日間」の頂点・侵共犯者佐藤内閣打倒の突口として闘った。

しかし京都においては真の敵以外にわれわれのいにとって障害が存在る。彼ら「統一会議」を称する一部の同盟脱落者志賀義雄氏講演会（テー「ベトナム反戦闘争と国共産主義運動」）ぶっしに狂奔し、にもかかわず講演会が大衆的に成功たとみるや我々のクラス動に様々な妨害を試みたそのような困難の中で当民学同の旗の下には、新生を含む五十名余りが結した。

第一回 東京地方大会開く

首都学生運動再生へ

都委員会は四月二十日第一回東京地方大会を開催し、同盟第九回大会の成果の上に都における春期闘争を成功的に推進すべく意志統一を勝ちとった。同志的な雰囲気のうち、各大学の闘争方針が確認され、春季自治会選挙における前進を通じて、首都学生運動の再建をかちとる決意が固められた。

【東京都委員会通信】都委員会は〝4・27ベトナム反戦国際連帯沖縄全面返還中央集会〟に向けて〝ベトナム反戦春の十日間運動〟を提起し、各大学支部において映画祭、講演会等により新入生に強力に働きかけるとともに一貫して大衆的な運動構築に努力した。

米帝の国内外における孤立と平和愛好勢力の闘いの前進という現情勢の基本動向をふまえ、〝北爆即時停止、沖縄全面返還、佐藤内閣打倒4・27統一行動にたとう！〟をメインスローガンに闘かわれたこの間の運動は大衆運動の敵対物に堕した三派、革マル系諸君のヘルメット・こん棒戦術を断固拒否することによって保証されるものであるとの意志確認のもとに組織的に規律をもって闘われた。またトロ諸派によって提起された〝4・26全学スト〟（明大、早大、中大）との無展望かつ大衆引き回しの方針＝極左ハネ上りを抑え、あくまでもクラス・学園に根づいた反戦意識の高揚とその組織化を追及した。激動的情勢の中で急速に反戦意識に目ざめた新入生のエネルギーを十分に汲みあげることが急務であった。

日比谷公園野外音楽堂での中央集会後、あくまでも組織的規律性と大衆的＝戦闘的な抗議行動を展開し、我々の隊列に加わった多数の学友に確信と共感を与えることに成功した。

同盟都委員会は4・27闘争で得られた教訓を自己のものとし、当日隊列に加わった新入生を含む学友を定着化させるとともに、より一層の飛躍を克ち取り、都における影響力の拡大と学生戦線分裂を克服するための闘いをさらに強めていく決意である。

民学同第一回東京地方大会

沖縄を返せ

都平連第一波二〇〇

〝ベトナム反戦共闘〟から〝全国自治会共闘〟へ、さらには〝第四全学連〟へと、学生戦線統一の立場を放棄したブロント系、並びに一部の同盟脱落部分が急速にトロ化するという困難な状況にもかかわらず、4・27都平連第一波闘争において二百名近くの学友を結集しえたことは大きな意義をもっている。

このことは同盟の方針の正しさを確証するものであると同時に、新入生を中心とする民主的学友の中にトロ諸派の極左ハネ上りと民青の右翼月和見主義に対する批判が強まっていることに従って同盟が大衆のエネルギーに依拠した闘いを行うならば、さらに同盟発展の現実的基盤が広範に形成されつつあることを示している。

右翼執行部辞任

民学同に大衆的支持

神奈川大

【神奈川大支部発】神大平和委員会は四月十五日を皮切りとして連続三回の「平和」を中心とした講演会を行なった。この間一貫して民青諸君の講演破壊活動があり、二日目の志賀義雄氏による「平和と学生」では破廉恥にも日共神奈川委の宣伝カーを学内にくりこみ「ニセ平和委員会による、ニセ平和の闘志の講演」なるビラを大衆的にまきちらすありさまであった。そして講演中に怒号とヤジとばしに終始した。しかし学友の鋭い意識と志賀先生の堂々たる態度と誠意ある講演は民青諸君をしてその意図を放棄せしめ孤立せしめた。四月における新入生アピール闘争は平和委員会の独走とヘゲモニーの中で行なわれ、毅立して以来約半年になる「平和と平和共存」を旗じるしとした神奈川大平和委員会は明確に大衆に根をおろしたと言うことができる。そしてそれは4・27統一行動に集約され5・1メーデーに大衆動員を勝ちとることに成功した。何よりも「今年こそベトナム反戦闘争勝利の年に」と「沖縄無条件全面返還」のスローガンを大胆に学友に提起する中で、クラスサークル討論の根強い動員を展開しクラスぐるみの立ち上がりが要請されている。さらに前号（No.48）で報告した如く神奈川大の学内民主化運動は教職員組合、教授会、学生の強い連帯により勝ち取って行き、兼任していた理事長の辞任までその日程に登らせている。

しかし社青同（解放）諸君の民主化ナンセンスあるいは民青諸君の闘争放棄と諸要求主義が露骨に展開されている今日、神奈川大支部全同盟員はその意志一致を深める中で、「学内規定」の民主的改革を断固追求し、学長、学生部長の学生を含めた公選制を勝ちとり評議会の民主的改革と、大学運営を決定する四者協の設置を学友とのクラス討論を通ずる中で大きくそれを受けた。

理大のルネッサンス

自治会選挙勝利

【東京理科大支部発】いよいよ、理大自治会のルネッサンスを切り開く自治会選挙が近づきつつある。過去二年間、着々と学友の支持を集め、今年こそ、勝利の年がめぐってきつつある。

民青系執行部は野田工学部問題を何ら闘いえず、現在においても、クラス、サークルを基礎とした生活と権利の闘いを行わず、看板とビラまきによる三派「全学連」並みの街頭主義に陥っている。また、昨年、賛成七〇〇、反対一九〇〇で圧倒的に、民青系分裂「全学連」加盟が否決され、学生運動の統一の声が叫ばれた。にもかかわらず、その声を全く踏みにじり、「理大は不完全加盟だ」とか「勝ち取って行きにはまず教授、学生の固い連帯で論」「トロッキー論」を粉砕する中で圧倒的に勝利し、主主義、よりよ」の旗印しを高学生戦線統一の川大学における連帯の中ておりかなければ

追伸　右翼は寄たどり応援団に人生歓誘に伴う教授会に活動停受けた。

全学連統一行動」なるものへの参加を呼びかけ、学友から不信と不満の声が上っている。

「闘わない」そしてセクト的非民主的自治会から、クラス・サークルに根ざした広範な運動を築きあげ、更に、全国学生運動の統一のイニシャとして登場することが切に望まれている。

プラカード・ゼッケン

新入生多数参加

＝大阪市

【市大支部発】市大において、4・26日のベトナム反戦国際連帯統一行動、府学連統一行動に新入生を中心とする三百名近くの学友は、ゼッケンデモ、ゼッケンデ

中執多数派（

議の妨害を排除の鍵と帳票類を理の下に取りに労組の自主管自身の手によったのである。

ところが翌二々のこのような行動に対しては、授業を打切学生を集めて「ついての大学側を開いた。学生力事件を解決す

生活委

教職員理事七務放棄を続けた自連、各自治会決定に従い、民開」の署名活動る粘り強い運動を動かした。学

会は、二月十七理事に、理事会よう勧告した。び業務再開の具にとりかかった

どのように業かで学生部長、理事「全学連」民青）は四人の棚上げにした即務再開を主張この三年月、我目的は阪大生協不正と暴力を働業員の追放なしの再建は不可能業務の無条件再

不正と暴力排除の声

全学に盛り上がる

○暴力的従業員の居すわりに抗議

○学校当局の責任問われる

〈阪大生協〉

四月二十三日の夕刊各紙は一斉に「阪大生協に元暴力団員学園内を横行」と大きく報道した。四月二十三日朝までに生協従業員のうち、元暴力団員三名を含む十二名が暴力行為・傷害で逮捕されている。

昨年十二月以降現在まで続いているいわゆる生協問題の本質は一部学校当局者がいうような学生運動の派閥争いではなく、生協一部従業員が、不正を働き、これを隠蔽するために、元暴力団員を含め度重なる暴力事件をひき起したことにある。従って生協民主化闘争の本質は、生協から不正と暴力を追放する同時に、学園を暴力から守り、大学の自治能力を確立することにあると言えるのである。

それ故不正と暴力の元従業員が居座っている限り、生協問題の真の解決はあり得ず、一部学校管理責任者の妥協的態度を徹底的に批判し、不正、暴力分子を学外に追放させることが焦眉の課題となっている。

〈生協闘争の経過〉

外販責任者小西の解雇と暴力事件

阪大生協問題の発端は、一部従業員が理事会を全く無視し、生協法定款違反の学外地域への外販活動を行なっていたことに対し、理事会がその責任者小西を解雇したことにあった。

小西を先頭とする一部従業員による外販活動は、六月下旬から、理事会に無断で生協資産六百万円を使用し、自動車二台を購入し、勝手に人を雇い行なわれたものであり、その上、推定五十八万円の赤字を生み出していた。この事は十一月に入って、上半期決算で書籍購売両部門の利益率低下が問題になり、理事会の徹底的な調査がなされる中で、明らかになった。これに対し理事会は、外販活動についての調査と小西の証言に基いて、十二月一日、小西を、生協法、定款違反、及び業務命令違反で解雇することを決定した。

十二月六日労組一部幹部は、組合規約を無視した大会を開き、小西解雇白紙撤回を要求し、七日から三日間の第一波ストに突入した。一方、同日午後八時、三人の元暴力団員を先頭に一部従業員はトラック二台に分乗し、こん棒をもって宮山寮になぐりこんだ。彼らは「学生理事を出せ」と叫びつつ寮内に入りこみ、一人の学生に前歯三本を折るような重傷を負わせた。翌朝、自治会、大院協役員寮生が暴力糾弾のビラまきクラス討論を行なおうとした時、彼らは反戦会議（マル学同中核派）と一緒になって襲いかかり、なぐるけるの暴行の限りを尽くした。学園の民主的秩序は完全に破壊され、討論を始め一切の自治活動は公然とはできなくなった。この段階から生協問題は単に不正追究だけでなく、暴力追放を含む全学的問題になった。

これに対し我々は七日に反戦会議が開いた労組支援集会に結集を呼びかけ、そこで彼らの暴力行為を暴露し、五百名の学生全体の力強いシュプレヒコールで、彼らに自己批判を迫った。我々はあくまで学生の理性的自覚に依拠し、学生全体を団結させることによって暴力を排除することを追求した。

13日の妥結と第三波スト

一方理事会と労組の団交は、理事会側の不正に対する断固たる態度があくまでも貫かれ、十一日から労組は再び第二波ストに突入した。その後、十三日の団交では、小西の解雇は正しいが、新事実に基き、一時実施を保留し、真相を調査するという点で妥結した。これは、その後小西が前言をひるがえし、彼の外販活動を志賀専務理事（十二月二日以後姿をくらましていた）、三橋業務部長が了解していたと証言したからである。

十四日から業務が再開され、十六日には年末一時金が支給された。

この期間の闘いの中で「全学連」支持会議（民青）は、一貫して小西解雇の白紙撤回と理事会総辞職を要求し、一部従業員、反戦会議と客観的には歩調を合わせるという役割を果たした。また、彼らは暴力事件に対しても、我々が学生を粘り強く組織しようとしている時に、この努力の意義を認めず、単に口先で正当防衛権を主張したのみであった。（中略）

総代会成功する

生協から不正と暴力を追放する為、一月十三日、臨時総代が開かれた。

事態収拾に自信を失った一部教官理事は、理事会の機能を生活委員会小委員会に移譲することを主張した。しかし総代会は、生協のことは理事会が全責任をもって生協で解決するという学生理事案を圧倒的多数で可決し、労組の五項目要求は拒否され、不正と暴力部従業員の妨害をも、学生の理性ある行動によって排除された。

この総代会の成功は、生協の民主的再開の第一歩であった。十九日の理事会は不正と暴力の主謀者四人（木原、小西、西田、志垣）を解雇した。

だが、一部教職員理事が辞意を表明し、理事会出席を拒否することによって、理事会は一時機能マヒに陥り、再建の実現は遅らされた。

労組による生協の自主管理と暴力事件の再発

一月十八日、全く学内で孤立した一部労組幹部は、自らの責任を曖昧にし、組合員、一般従業員の要求に答えるようなポーズで、労組の自主管理による業務を再開した。しかし理事会の管理を離れたこのような自主管理は、金銭関係が曖昧になり、不正を拡大し、社会的信用を落すのみであった。この自主管理を批判する学生に対し、一部従業員は再び暴力を振い始め多数の学生を負傷させた。一月二十二日には宮山寮生の集会に、元暴力団員ら一部従業員がこん棒でなぐりかかり、寮委員長などが負傷した。その場で約三百名の暴力排除の集会を開き、学部長に対し、暴力事件を未然に防ぐための措置をとるよう要求した。

一月二十四日、阪自連は暴力糾弾の集会を呼びかけ約八百名の学生が「暴力！反対！」のシュプレヒコールで学内をデモした。デモ行進は生協施設の前に結集し、生協施設を占拠していた労組幹部に、暴力行為の自己批判と施設の理事会への明け渡しを要求した。そして施設の前に陣どり不当占拠をかばっていた反戦会